



日本の美しい四季と暮らし ナショナルパーク八幡平を目指して

市観光振興計画を策定

平成29年に策定された第3期市観光振興計画の成果と課題を踏まえ、第4期市観光振興計画を定めました。
本計画では、「日本の美しい四季と暮らし ナショナルパーク八幡平」を将来像に取り組みます。
本号では、計画の概要を紹介します。
■問い合わせ先 商工観光課観光振興係(☎・内線1313)

3つのアクションプラン

観光の将来像を実現するため、次の3つのアクションプランと9つの施策を定めました。

高めて、広げる

1-1 外国人観光客の受入促進

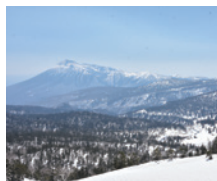
①外国人観光客にとっての「目的地」形成に向けた受入基盤整備など外国人観光客から「選ばれる観光地」を目指します。

1-2 自然を楽しむ アドベンチャーの推進

①登山の魅力を提供するユニバーサルツーリズムを推進します。
②八幡平山頂エリアのガイド人材の育成、WEBによるガイド予約販売の仕組みを構築し、ツアー造成や販売を実施します。

1-3 国際競争力の高い スノーリゾート形成の促進

①スノーリゾートを最大の武器に、インフラ投資やグリーン期の受入基盤整備などを支援し、スキー場の魅力化を狙います。
②ファミリー向けコンテンツの開発や海外ファミリー層への発信、グリーン期のコンテンツ開発など、富裕層受入に見合う価値の創出を行います。
③スキー場や国立公園のベースタウンとなる宿泊施設や観光施設において、上質かつ多様な滞在環境の開発促進とともに省エネ、カーボンニュートラル、廃棄物の削減を意識



本計画のテーマを設定

将来像を目指すテーマを「自然を未来につなぐまちNatural Resort 八幡平」と設定し、3つの視点で取り組みます。

- ①「Natural Resort」として、「稼げるリゾート」へ
- ②滞在する人にも暮らす人にも心地よい、持続可能な環境の提供
- ③市民の誇りにつながる観光地域づくり

本市の観光の価値と課題

■市の価値(強み)

- ・国立公園として認められる、豊かな自然とその活用
- ・豊かな環境を守り続けている
- 市の観光の課題(弱み)
- ・市内外への情報発信不足
- ・関係者間の連携不足
- ・若い世代への教育、人材不足
- ・観光資源、施設・インフラ整備

数値目標の設定

本市が抱える観光の課題を解決し「選ばれる観光地」とするため、6つの指標を定めました。

2 伝えて、育む

1-4 スポーツツーリズムの推進

①スポーツ施設を活用したスポーツツーリズムによる受け入れを推進します。
②景観に優れたルートを活用し、八幡平ヒルクライム大会の実施やライドツアーを造成します。

2-1 地熱などからSDGs サステナビリティを学ぶ

①地熱資源を活用したサステナブルな取り組みなどを生かし、教育旅行や企業研修誘致の取り組みを推進します。

2-2 地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用

①日本遺産に認定されている「奥南部漆物語〜安比川流域に受け継がれる伝統技術〜」な



①旅行支出額 単位：円					
項目	元年度	3年度	4年度	5年度	8年度
日本人観光消費額	—	39億	44億	47億	61億
1人当たり消費額	—	25,560	26,000	26,500	28,000
訪日外国人観光消費額	53億	—	8億	30億	97億
1人当たり消費額	41,027	—	42,000	42,500	44,000

③リピーター率・再訪意向					
項目	元年度	3年度	5年度	8年度	
リピーター率	日本人	—	83%	82%	80%
	外国人	89%	—	84%	80%
再訪意向 (7点満点)	日本人	—	6.54	6.55	6.6
	外国人	5.82	—	5.9	6.6

※7点=とても満足、6点=満足、5点=やや満足、4点=どちらでもない、3点=やや不満、2点=不満、1点=とても不満

②旅行者数(観光入込客数など)

項 目	元年度	4年度	5年度	8年度
観光入込客数	1,879千人回	1,700千人回	1,850千人回	2,400千人回
延べ宿泊客数	514千人回	400千人回	450千人回	600千人回
外国人観光入込客数	129,476人回	20,000人回	70,000人回	220,000人回
教育旅行者数	24,529人回	15,000人回	18,000人回	28,000人回
スポーツ関係宿泊者数	16,374人	16,000人	17,000人	22,000人

④来訪者満足度

項 目		元年度	3年度	5年度	8年度
総合満足度 (7点満点)	日本人	—	6.24	6.25	6.3
	外国人	6.1	—	6.15	6.6

⑤観光資源に対する認知率(市民)

⑥観光への関与意向(市民)

※アンケート調査により基準値(現状値)を設定後、目標値を定める。

3 つなぐ

3-1 地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用

①観光資源の維持・保全に係る取り組みや民間資金を募るクラウドファンディングなどによる資金調達を検討します。

3-2 交通アクセスの拡充

①観光需要に配慮したコミニ



ど、文化や歴史を共有する自治体との広域連携強化を推進します。

②地域食材の活用や食の体験コンテンツの提供やアグリツーリズムをテーマとした農の観光コンテンツ化を目指します。

③観光に関する授業や市民向けの観光体験会を実施し、観光人材の確保につなげます。

④市観光協議会や市観光振興審議会と連携し、計画の進捗状況を評価や検証する体制を強化します。さらに、観光経営人材育成や観光施策財源確保に向けた検討を行います。

また、関係人口、交流人口の増加につながる、ファンコミュニティの仕組みづくりを構築します。

計画は令和8年度まで

本計画の期間は令和8年度までの5年間です。
各施策の進捗に応じて見直しを行い、観光を通じた持続可能なまちの実現を目指します。